

中央アルプス	木曾駒ヶ岳と三ノ沢岳	No. 108
--------	------------	---------

昨年五月の連休が忘れられず、しつこく今年も中央アルプスへ。

今年目標は、縦走のほかに三ノ沢岳のピストン。三ノ沢岳は主稜から外れて木曾側に飛び出しているために人の訪れはきわめて稀だと言われている。しかし、高さは2846.5m、宝剣岳からその柔らかなピラミッドを眺めて唸ったのは決して私だけではないだろうと思う。希望としては勿論縦走したいところではあるが、天候その他の条件との兼ね合いもあるし、どうなるだろうか。同行は昨年の吉野に代わり今年石関。

昭和43年5月4日

22時35分発長野行。ゴールデンウィークはどの列車も混んでいるが、この列車だけはいつも空いている。

篠ノ井線経由の長野行なので、北アルプスへ行く人が乗らないせいだろうか。

車内で食料費の精算(一人 540円)。

昭和43年5月5日

辰野3時48分着、飯田線に乗り換え。4時45分発車と同時に持参した朝食を車内でぱく付く。

駒ヶ根5時35分着、快晴。懐かしき駒ヶ根の駅頭に立ち、西に目をやると極楽平の直下に島田娘の雪形がありありとうかがえる。俺は何と運のいい男だろう、一年の内で何日かしか見られない珍しい雪形を二年続けて見ることができるとは。



続けて見ることができるとは。

バスは6時55分発。昨年の7月しらび平から千畳敷へのロープウェイが完成し、もはや中御所谷のシュルンドの中を歩いていく人はいない。我々も文明の恩恵に浴してロープウェイで9分。海拔2500mの千畳敷に

8時10分に到着。昨年新宿駅を出発してから9時間半、もう2500mの高さに立っている。科学の力というやつはまったく恐ろしい。

千畳敷山荘の裏手に天幕を張り、朝食。カールの雪は強い日差しの中で時々刻々その姿を水に変えている。

遥かかなたの天竜川の対岸の南アルプス連山は雲の中に姿を隠している。

朝食の後、サブザックで駒ヶ岳(2956.3m)を往復。カールの上部の急な斜面から下を見下ろすと千畳敷という名がなるほどどうなずける。中岳、宝剣、極楽平からスーッと下りた曲線が中御所谷のモレーンの縁まで続き、まさに千畳敷の敷物を敷いた大きなお皿のように感じられる。ガスが頻りに湧き出し、周囲の景色はなかなか思うにまかせない。

踏み跡から小さく崩れ落ちた雪の塊が谷に向かって転がりながら小さな雪崩を起こした。

オーバーシューズを没する軟雪で、あまり歩きやすくない。雪崩の危険性を考えて、駒ヶ岳だけをピストンして、カールの天幕場に戻った。遅い昼食の後は暇つぶしに極楽平への直登ルートを探してみたが、これ

## 踏み跡 < My mountains >

も雪崩が多く、まったく扱いきれない雪に閉口。

16時の気象通報。大きな気圧の谷が近づいており、天気は崩れはもう目前に迫っている。

明日一日が行動できるチャンスで、明後日はもう駄目だろう。

17時夕食、19時25分就寝。意外にも星空はカラリと気持ちよいが、やや薄雲がちなのが気になる。

昭和43年5月6日

起床3時15分、まず空を見る。天の川も見える凄い星空に流れ星が一筋。

空模様をただで第一関門を突破したような安心感で朝食。天気が悪くなるという想定で、今日は「早



い出発と早い帰り」を心がけることにした。

5時10分出発。昨日頻繁に起きた小さな雪崩の影響で、カールの雪はいたるところ凸凹になっており歩きにくい。表面が凍っているのでアイゼンの利きはよく、小気味良い軋みを聞かせてくれる。

中岳のコルから再度駒ヶ岳へ、6時05分。

次に宝剣岳(2931m)へ。北アルプス、南アルプスの山は殆ど見えるし、木曾御岳も勿論素晴らしい眺め。

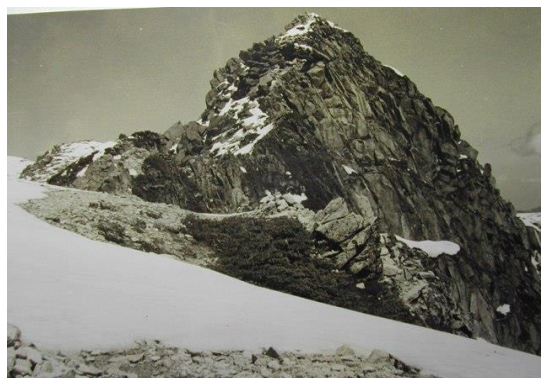
(左写真)

これでも天気が悪くなるのだろうか？ と昨晚描いた

天気図を疑いたくなってくる。

去年は雪が多くて登頂を断念した宝剣岳も、今年は難なく登ることができた。宝剣岳の頂上は2931m、1㎡ほどの岩峰の尖端。西側も東側も大きく谷が切れ落ち、針の先という印象。その昔ある陸軍の軍人がここで倒立をして見せたという伝承があるが、あらためてその度胸に驚嘆する。我々が目指す三ノ沢岳は、もう頂の一部を朝の光にきらきらと輝いている。

極楽平7時50分。北側の中岳のコルから見た尖塔のような宝剣岳も、南側の極楽平から見るとゆったり構えた岩塊と見えてしまう。(右の写真)



長い長いつり橋のような尾根を引いて三ノ沢岳は白く、飽くまでも白い。その白い魅惑の中に吸い込まれる



ように歩を進め、一時間で2846.5mの頂上に到着、時刻は8時50分。

頂上に着く頃にはもう雪はかなりの軟らかさになり、期待してい

た復路の尻セードは諦めることになった。一時間かけてゆっくり昼食。木曾側に飛び出しているここからは、木曾の山特に木曾御岳が大きく立派に見える。後ろを振り返ると木曾山脈の主稜線。伊那側から見たときは全く違った静けさと力強さを感じられる。宝剣から松尾、空木、南駒・・・と連なる稜線よりわずかに高く甲斐駒を先頭に聖岳以南まで続く南アルプス(赤石山脈)。その中ほどに申し訳なさそうに顔だけチョンと出した富士山。9時40分三ノ沢岳を出発。(上のパノラマ写真)

帰路は軟雪に足をとられながらも硬い雪面を見つけては尻セードを楽しみながら。10時50分極楽平帰着。

## 踏み跡 < My mountains >



念願を叶えた後に見る三ノ沢岳は、またまた一段と白く美しく見える。正午、千畳敷天幕場に帰着。オーバーシューズ、アイゼンバンド等の濡れた物を乾かしながらスケッチをしたり明日の打合せをしたり……。

16時、気象通報。明日の天気にはもう何も期待はしなくてもよい。今日の晴には腹の底から感謝、感謝。17時半夕食、18時50分就寝。

(左写真:威風堂々 宝剣岳)

昭和43年5月7日

24歳の誕生日は夜中から雨。それでも5時に起床。目が痛い、雪盲にやられたようだ。明るいとところに出ると痛くてたまらない。涙は出るし、霞んでよく見えない。

もうあわてることはない、今日は下山するだけだ。朝食後撤収。そして小屋の中で若干の暇つぶし。下山もここからならば安全。目をつぶっていても下山できる。ロープウェイで9分、雨もまったく苦にならない。

雪盲は仮性近視だろうか、石関の眼鏡を借りたらよく見える。目が見えないことがこんなに辛いものかと痛感。帰りは時間も早いので、辰野から鈍行でゆっくりと帰った。

今年もやっぱり雨にやられたが、それでも去年の経験にさらに上積みできる何かを得たような気がする。

宝剣の頂上、三ノ沢岳、みんな良かった。これで来年の5月もまた中央アルプスに入るという決心がついた。次はいよいよ宝剣より南へ足を入れたい。5月は中央アルプスに限る!!

以上